

KYOWA KIRIN

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年12月31日 中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国 各支店で行っております。
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、やむをえない 事由により電子公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.kyowa-kirin.co.jp/ir/
証券コード	4151

協和発酵キリン株式会社

〒100-8185 東京都千代田区大手町一丁目6番1号 (大手町ビル)
電話 03-3282-0007
<http://www.kyowa-kirin.co.jp/>

お知らせ

住所変更、単元未満株式の 買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設され
ました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住
友信託銀行株式会社にお申出ください。特別口座に関す
る振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当
金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続きについ
ては、下記三井住友信託銀行株式会社のフリーダイヤル又
はホームページで24時間受け付けております。

フリーダイヤル 0120-782-031
ホームページ
<http://www.smb.jp/personal/agency/request/>

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお
申出ください。



KYOWA KIRIN

株主のみなさまへ

第90期 中間報告書 平成24年1月1日～平成24年6月30日



代表取締役社長
花井 陳雄

株主のみなさまには、平素より当社経営へのご理解、ご支援をいただきまして、誠に有り難く心より御礼申し上げます。

当社の第90期上半期（平成24年1月1日～平成24年6月30日）が終了しましたので、ここに中間報告書をお届けし、概況についてご報告いたします。

(注) この中間報告書に記載の金額及び株式数は、表示単位未満を切捨てております。

当上半期における我が国経済は、欧州債務危機や原油高など海外景気の下振れ懸念や円高の影響など依然として厳しい状況にありながらも、復興関連需要による国内需要の堅調な推移や個人消費の安定的な増加など、緩やかな持ち直し基調で推移しました。

当社においては、2010-12年度グループ中期経営計画で、「経営資源の効率的投入によりスピーディーに開発パイプラインを進展させる」というテーマを掲げており、重点項目として「事業ポートフォリオの選択と集中」、「生産拠点の再編による収益力強化」、「世界最高水準の抗体技術ビジネスの進展」の3つのポイントに注力しております。

まず「事業ポートフォリオの選択と集中」に関し、中核となる医薬事業において、3月に当社と富士フィルム株式会社（以下「富士フィルム社」といいます。）は、バイオシミラー医薬品の開発・製造・販売の合弁会社「協和キリン富士フィルムバイオロジクス株式会社」を設立しました。

バイオシミラー医薬品市場は、医療費増の問題や2010年代後半に先行の大型バイオ医薬品が特許満了を迎えることを背景に世界的に高い成長が見込まれています。合弁会社は、当社がバイオ医薬品の研究・開発・製造で蓄積してきた独自技術・ノウハウと、富士フィルム社が長年フィルムなどの事業で培った高度な生産技術や品質管理技術、解析技術を融合させ、バイオシミラー医薬品の画期的な生産プロセスの創出やコスト低減を図

り、高信頼性・高品質をベースに世界市場で競争力のある製品を開発・製造してまいります。

また、昨年完全子会社化した英国のProStrakan Group plc（以下「ProStrakan社」といいます。）は、欧州及び米国においてがん関連領域をはじめとする医療用医薬品の開発・販売体制を有しておりましたが、当社グループ傘下となったことで両社の持つ経営資源の相互補完・有効活用が進み、当社重点領域におけるグローバル新薬開発や欧州での販売拡大などが順調に推移し、当社のグローバル戦略の進展に貢献しております。

「生産拠点の再編による収益力強化」については、医薬事業の生産基本戦略に則り、低分子医薬品製剤の生産機能を担う宇部工場において、新製剤棟の建設が順調に進捗し年内にも完工予定です。バイオケミカル事業の子会社である第一ファインケミカル株式会社においても、低分子医薬品原薬製造設備の建設が進んでいます。引き続き、医薬・バイオケミカル事業一体となって生産効率の向上を追求するとともに、高品質な製品の安定供給を実現してまいります。

「世界最高水準の抗体技術ビジネスの進展」については、「ポテリジェント（POTELLIGENT®）」及び「コンプリジェント（COMPLEGENT®）」技術に加え、世界トップレベルの抗体医薬の生産技術を有しており、当社の抗体医薬における存在感はますます高まっております。

とりわけ、がん領域では、国内において、世界で初めてポテリジェント技術を活用した抗体医薬品の第1号と

して、血液がんの一種である成人T細胞白血病リンパ腫の治療剤「ポテリジオ」を発売し、内外にて大変注目されております。

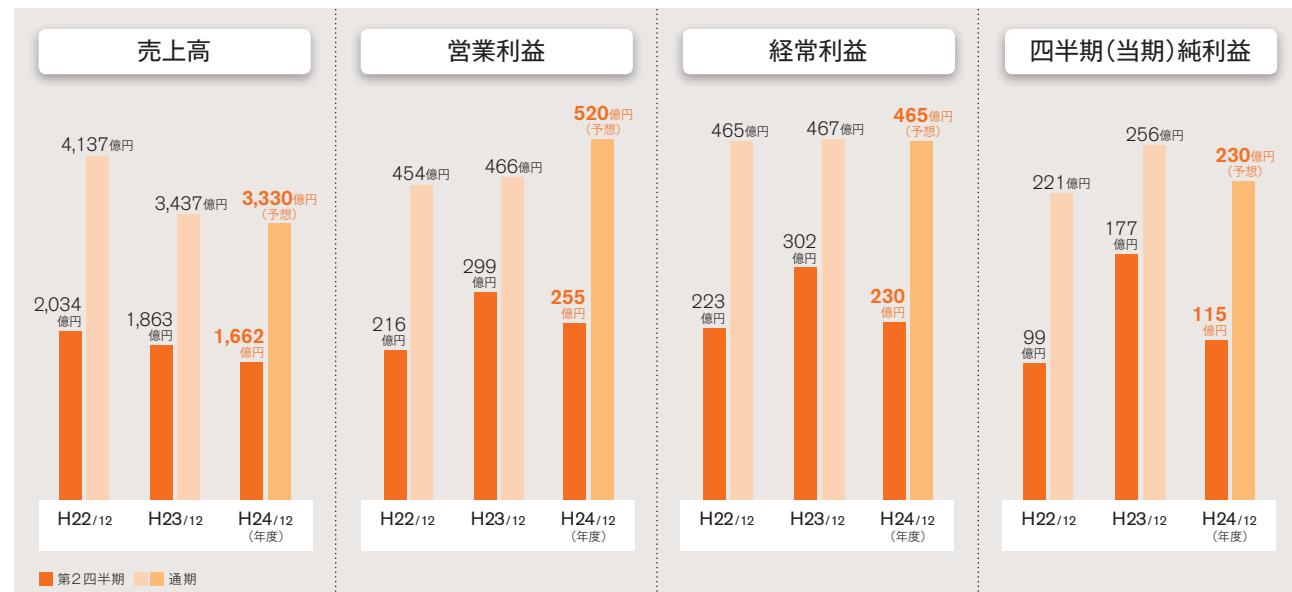
また、協和メデックス株式会社から、「ポテリジオ」の投薬を判断するための補助に使用される体外診断用医薬品「ポテリジオテスト」を合わせて発売しました。

抗体以外の新薬開発においても、国内において、腎領域では、2型糖尿病を合併する慢性腎臓病を対象としたRTA 402が第Ⅱ相臨床試験を開始したほか、中枢神経系領域では、パーキンソン病治療剤「アボカイン」の承認を取得し、またパーキンソン病治療剤KW-6002の承認申請を行うなど、それぞれ重要な進展をみることができました。

セグメント別の状況については、医薬事業では、ジェネリック医薬品の使用促進、欧米製薬企業や専門大手の攻勢、国際的な新薬開発競争の激化など、引き続き厳しい競争環境となっております。このような環境下において、国内営業の更なる強化に努め、主力製品の販売拡大及び新製品の早期市場浸透を図ってまいりました。

バイオケミカル事業では、医薬・医療用途を中心とするアミノ酸・核酸関連物質等の高付加価値品の拡販を図りました。ヘルスケア製品では、「リメイク オルニチン」など独自ブランド素材を中心とする通信販売リメイクシリーズの強化に取り組みました。

この結果、当上半期の連結ベースの売上高は、前年3月末をもって化学品事業（前年同期の売上高335億円、



営業利益21億円)が連結除外となった影響もあり、1,662億円(前年同期比10.8%減)となり、営業利益は255億円(同14.5%減)、経常利益は230億円(同23.6%減)、四半期純利益は115億円(同35.0%減)となりました。

なお、当上半期までの連結業績は、赤血球を増やして腎性貧血を改善する薬剤である、主力製品の「ネスプ」が好調に推移するなど、医薬事業を中心に当初計画を上回る収益状況で推移しております。このような業績動向等を踏まえ、通期の見通しを上方修正いたしました。修正後の連結ベースの売上高は3,330億円(1月31日発表予想3,260億円)、営業利益は520億円(同480億円)、経

常利益は465億円(同425億円)、当期純利益は230億円(同200億円)と見込んでおります。

当社グループは、「バイオテクノロジーを基盤とし、医薬を核にした日本発の世界トップクラスの研究開発型ライフサイエンス企業を目指す。」というビジョンを掲げ、多様なニーズに対する新たな価値の提供を通じてグローバルな成長に挑戦し、企業価値の持続的な向上を図ってまいります。

今後とも、株主のみなさまのご期待に沿えるよう全力を尽くす所存ですので、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年8月



当期の概況

国内の医療用医薬品は、主力品が順調に推移したものの、4月に実施された薬価基準の引下げの影響等により、売上高は前年同期を下回りました。

製品別には、赤血球を増やして腎性貧血を改善する薬剤である、主力製品の「ネスプ」が好調に推移したほか、透析における合併症のひとつである二次性副甲状腺機能亢進症の治療剤「レグバラ」、持続するがんの痛みを緩和に用いられる、1日1回タイプの貼付剤「フェントス」、潰瘍性大腸炎の治療剤「アサコール」等が伸長しました。また、5月には血液がんの一種である成人T細胞白血病リンパ腫の治療剤「ポテリジオ」の販売を開始しました。一方、花粉飛散量が少なかった影響等により、抗アレルギー剤「アレロック」及び抗アレルギー

点眼剤「パタノール」の売上高は前年同期を下回りました。

医薬品の輸出及び技術収入では、輸出が堅調に推移したことに加えて、協和キリン富士フィルムバイオロジクス株式会社からの技術収入を計上したため、前年同期の売上高を上回りました。

なお、前年6月末から連結をしたProStrakan社及びその子会社11社は、概ね計画並みに堅調に推移しており、売上高は77億円、営業損失(のれん等償却後)は20億円となりました。

この結果、医薬事業の売上高は、1,228億円(前年同期比9.2%増)となり、営業利益は233億円(同7.1%減)となりました。



領域	開発番号	対象疾患	開発地域	開発段階					
				フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	
がん	Y KW-0761	末梢性T/NK細胞リンパ腫	日本	→					
		成人T細胞白血病リンパ腫併用療法（未治療対象）	日本	→					
		末梢性T細胞リンパ腫および皮膚T細胞リンパ腫	米国	→	フェーズ1/2				
		末梢性T細胞リンパ腫	欧州	→					
	Y Pegfilgrastim	がん化学療法による発熱性好中球減少症	韓国、ベトナム	→					
	* Granisetron	催嘔吐性化学療法剤による悪心および嘔吐	台湾、シンガポール	→					
	* KW-2246	がん性疼痛	日本	→					
	Y KRN125	がん化学療法による発熱性好中球減少症	日本	→					
	* ARQ 197	肺がん	日韓台	→					
		胃がん	日韓	→					
	* KW-2478	多発性骨髄腫	英米比	→	フェーズ1/2				
	Y KRN321	骨髄異形成症候群に伴う貧血	日韓	→					
	* KRN1493	副甲状腺癌及び難治性原発性副甲状腺機能亢進症に伴う高Ca血症	日本	→					
	* KW-2450	悪性腫瘍	米国	→	フェーズ1/2				
	Y KRN330	悪性腫瘍	米国	→	フェーズ1/2a				
	Y BIW-8962	悪性腫瘍	米国	→	フェーズ1/2a				
	* KRN951	悪性腫瘍	日本	→					
	Y KHK2866	悪性腫瘍	米国	→					
	* LY2523355	悪性腫瘍	日本	→					
	Y CEP-37250/KHK2804	悪性腫瘍	米国	→					
Y KHK2898	悪性腫瘍	シンガポール	→						
腎臓	* Cinacalcet Hydrochloride	二次性副甲状腺機能亢進症	アジア*1	→					
	Y KRN321	小児腎性貧血	日本	→					
		腎性貧血（透析施行中）	インド	→					
			中国	→					
* RTA 402	2型糖尿病を合併する慢性腎臓病	日本	→						

用語解説

フェーズ1 同意を得た少数の健康人志願者を対象に、安全性及び体内動態の確認を行う。

フェーズ2 同意を得た少数の患者さんを対象に、有効で安全な投薬量や投与方法などを確認する。

フェーズ3 同意を得た多数の患者さんを対象に、既存薬などと比較して新薬の有効性及び安全性を確認する。

領域	開発番号	対象疾患	開発地域	開発段階				
				フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認
免疫／アレルギー	Y ASKP1240	臓器移植時の拒絶反応	日本	→				
	Y KHK4563	気管支喘息	米国	→				
			日韓	→				
	* Z-206	クローン病	日本	→				
	Y KW-0761	気管支喘息	日本	→				
Y KHK4827	乾癬	日本	→					
中枢神経	* KW-6002	パーキンソン病	日本	→				
	* KW-6485	小児てんかん	米国	→				
			日本	→				
* KHK6188	神経障害性疼痛	日本	→					
その他	Y AMG531	慢性特発性（免疫性）血小板減少性紫斑病	台湾	→				
	Y KW-3357	汎発性血管内凝固症候群、先天性アンチトロンピン欠乏に基づく血栓形成傾向	日本	→				
			欧州	→				
Y KRN23	X染色体遺伝性低リン血症性くる病（XLH）	米加	→	フェーズ1/2				

Y：抗体 Y：たんぱく製剤 *：低分子化合物 ※1：フィリピン、マレーシア、タイ、中国

（平成24年7月17日現在）

開発状況について

がん領域

国内において、3月に成人T細胞白血病リンパ腫治療剤「ポテリジオ」の承認を取得し、5月に発売しました。また、協和メデックス株式会社では、3月に「ポテリジオ」の投薬を判断するための補助に使用される体外診断用医薬品「ポテリジオテスト」の承認を取得し、5月に発売しました。アジアにおいては、5月にPegfilgrastim（製品名「Neulasta」）の承認を韓国にて取得しました。

腎領域

国内において、2月に2型糖尿病を合併する慢性腎臓病を対象としたRTA 402の第Ⅱ相臨床試験を開始しました。

中枢神経系領域

国内において、3月にパーキンソン病治療剤「アボカイン」の承認を取得しました。また、3月にパーキンソン病

治療剤KW-6002の承認申請を行いました。さらに、5月に帯状疱疹後神経痛を対象としたKHK6188の第Ⅱ相臨床試験を開始しました。

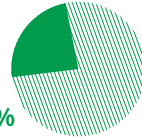
研究開発

医療ニーズに応える革新的な医薬品の創製を目指しております。重点的に取り組んでいる抗体医薬に加え、新たな創薬技術として期待される核酸医薬の研究開発をDicerna Pharmaceuticals, Inc.との共同研究等を通じて鋭意進めております。東京リサーチパークにおいては、研究棟を全面的に建て替え、最先端のバイオテクノロジーを駆使して、抗体技術を基盤とした新たな創薬技術の確立を進めています。また、個別化医療の動向を踏まえ、コンパニオン診断薬の開発に向けた協和メデックス株式会社との開発早期からの連携を強化しております。

Bio-Chemicals

バイオケミカル事業

売上高構成比 **24%**



売上高 **400** 億円 営業利益 **20** 億円

当期の概況

アミノ酸・核酸関連物質を中心とする医薬・工業用原料は、海外での需要が引き続き旺盛であることを受け、増産や販売価格の見直しを実施したものの、欧州信用不安による円高ユーロ安の影響を大きく受け、売上高は前年同期をわずかに下回りました。

ヘルスケア製品では、「リメイク オルニチン」をはじめとする通信販売事業が、順調に伸長しておりますが、飲料・食品用原料素材の販売が低調に推移したことなどから、売上高は前年同期並みにとどまりました。

また、第一ファインケミカル株式会社は、昨年完工



した医薬品原薬・医薬部外品原料などに使用されるトランスキサム酸の製造設備が本格稼動し、売上高は前年同期を大きく上回りました。

この結果、バイオケミカル事業の売上高は、400億円（前年同期比0.7%減）となり、営業利益は20億円（同19.0%減）となりました。

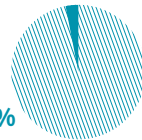
当期の概況

その他事業（物流業等）の売上高は、51億円（前年同期比2.5%減）となり、営業利益は1億円（同5.1%増）となりました。

Other

その他事業

売上高構成比 **3%**



売上高 **51** 億円 営業利益 **1** 億円

医薬品



成人T細胞白血病リンパ腫治療剤
「ポテリジオ® 点滴静注20mg」新発売

当社は、5月29日に「ポテリジオ® 点滴静注20mg」(以下「ポテリジオ®」)を新発売しました。

ポテリジオ® は、再発又は難治性のCCR4陽性の成人T細胞白血病リンパ腫^{注1}の治療薬です。

ポテリジオ® は、当社が初めて製造販売承認を取得した抗体医薬で、当社独自の強活性抗体作製技術「ポテリジェント (POTELLIGENT®)」^{注2}技術を応用した抗体医薬としては、世界で初めて製造販売承認を取得した医薬品です。

当社は、特徴ある抗体技術を生かした抗体医薬の開発に取り組むことで、成人T細胞白血病リンパ腫をはじめとした希少疾病を含め、様々な疾患の治療およびQOL^{注3}の向上に貢献してまいります。

注1. 成人T細胞白血病リンパ腫
血液がんの一種であり、国内の年間発症例数は約1,150例と推定されています。一般的に、多剤併用化学療法が施行されますが、移植以外に治癒が期待される治療法は確立されていません。再発・再燃例に対しては、悪性リンパ腫の治療法に準じた種々の化学療法が実施されていますが、有効な治療法は確立されていません。

注2. ポテリジェント (POTELLIGENT®)
当社が独自に確立した高ADCC活性抗体作製技術です。本技術で作製した抗体は、従来の抗体に比べて、標的細胞を極めて効率的に殺傷し、高い抗腫瘍効果を示すことが非臨床試験で確認されております。

注3. QOL (Quality of life)
人間らしく、自分らしい生活をどれだけおこなっているかや、充実さや満足感を意味します。

体外診断薬

「ポテリジオ®」のコンパニオン診断薬「ポテリジオ® テスト IHC」、 「ポテリジオ® テスト FCM」新発売のお知らせ

協和メデックス株式会社は、5月7日に体外診断用医薬品「ポテリジオ® テスト IHC」、「ポテリジオ® テスト FCM」(以下、両製品を合わせて「ポテリジオ® テスト」)を新発売しました。

「ポテリジオ® テスト」は、当社が5月29日に発売した「ポテリジオ®」のコンパニオン診断薬^{注1}で、再発又は難治性の成人T細胞白血病リンパ腫の患者さんにおいて「ポテリジオ®」の投薬を判断するための補助に使用されます。治療薬と体外診断薬を組合せて使用することで、適切な患者さんに適切な治療をお届けできる個別化医療に貢献できると考えております。



ポテリジオ® テスト IHC



ポテリジオ® テスト FCM

注1.

コンパニオン診断薬
個別化医療で用いられる体外診断用医薬品です。あらかじめ遺伝子やバイオマーカーを調べておくことにより、患者さんごとに有効性が高く、かつ副作用の少ない医薬品を投与することができ、最適な治療法や医薬品を選ぶことを可能にします。特定のがんを中心に、すでに利用されております。

事業提携

当社と大塚製薬株式会社による糖尿病領域とがん領域の戦略的提携

当社と大塚製薬株式会社は、6月29日に糖尿病領域とがん領域において、戦略的な提携を推進することに合意しました。

提携の内容は以下の通りです。

1. 当社は、大塚製薬株式会社が保有する、DPP-4の阻害作用を有する糖尿病治療薬「サキサグリブチン」(一般名)の日本における独占的な開発・販売権の譲渡を受けます。
2. 当社と大塚製薬株式会社は、当社が保有するがん領域の品目について、日本及びアジアにおいて戦略的な提携を推進することに合意いたしました。当社及び大塚製薬株式会社は、がん領域を医薬品事業の重点領域と

位置付けており、本提携が成立することは、互いの事業の強化につながります。

当社は、がん、腎、免疫・アレルギーを重点領域としていますが、今回の大塚製薬株式会社との戦略的提携により、がん、腎領域について事業基盤を強化することが可能になります。糖尿病は、慢性腎疾患の発症、進行に関わる代表的疾病の一つであり、その治療薬「サキサグリブチン」を保有することは、腎領域製品の拡充となり、この領域の医療により一層貢献することができます。またがん領域においても、今回の戦略的提携を速やかに実現させて、より多くの患者さんに必要となる医薬品をお届けしていきたいと考えております。

「復興応援 キリン絆プロジェクト」

当社では、一日も早く、被災した子どもたちの元気と笑顔を取り戻したいとの思いから、卓球教室の開催、理科教育支援などを通じて、「子どもの笑顔づくり支援」活動を展開しています。

【卓球教室の開催】

「子どもの笑顔づくり支援 協和発酵キリン卓球教室」を岩手県・宮城県・福島県において、継続的に開催しています。2012年度は3県10か所で開催します。また、新たな取り組みとして、仮設住宅での卓球交流会および障害者の方を対象とした卓球交流会も開催し、誰もが楽しめる卓球を通じて被災地の皆さまの笑顔の輪を広げる活動を展開します。



【理科教育支援】

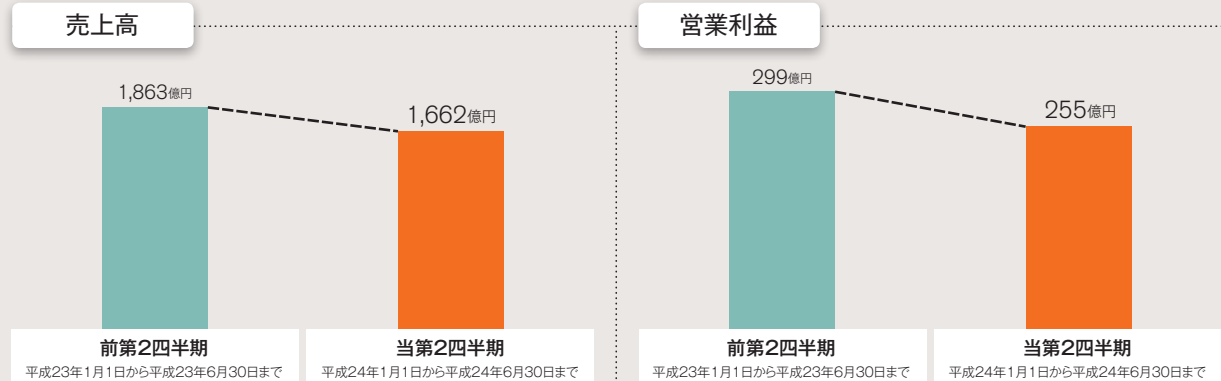
日本農芸化学会を通じて、東日本大震災で被災した岩手県・宮城県・福島県の小学校・中学校・高等学校を対象に理科教育を支援しています。日本農芸化学会が主催するジュニア農芸化学会2012(京都)に支援対象校の生徒の皆さんを招待したほか、支援対象校には、出前理科教室の開催、顕微鏡などの実験器具の寄贈を行っています。



【キリンSCJ「絆」奨学金】

キリングループがセーブザチルドレンジャパン(SCJ)と共に設立した「キリンSCJ「絆」奨学金」を通じて、岩手県・宮城県・福島県の農業高校および農業科の被災した高校生への就学支援を行なっています。2012年度は、3県20校計656名への「キリンSCJ「絆」奨学金」の給付を開始しています。

四半期連結損益計算書の概要

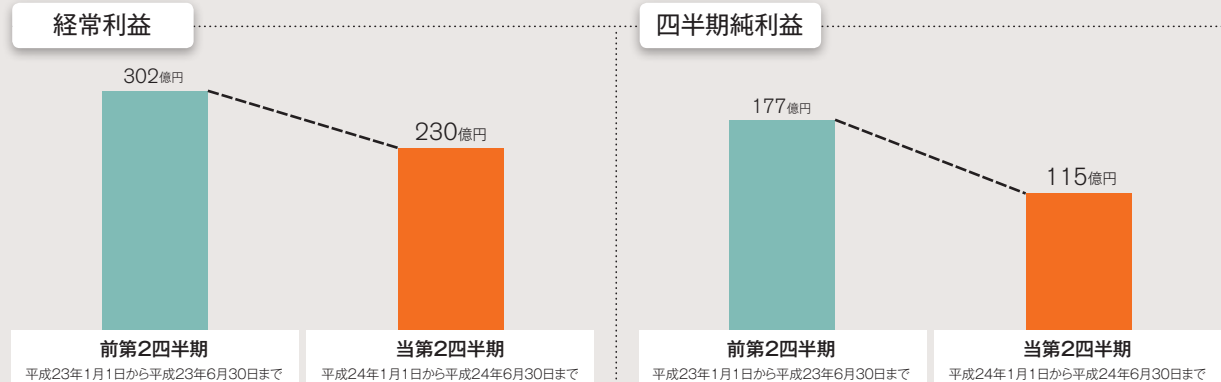


売上高のポイント

主力製品の「ネスプ」が好調に推移しましたが、前年3月末をもって化学品事業（前年同期売上高335億円）を連結除外した影響もあり、前年同期比10.8%の減収となりました。

営業利益のポイント

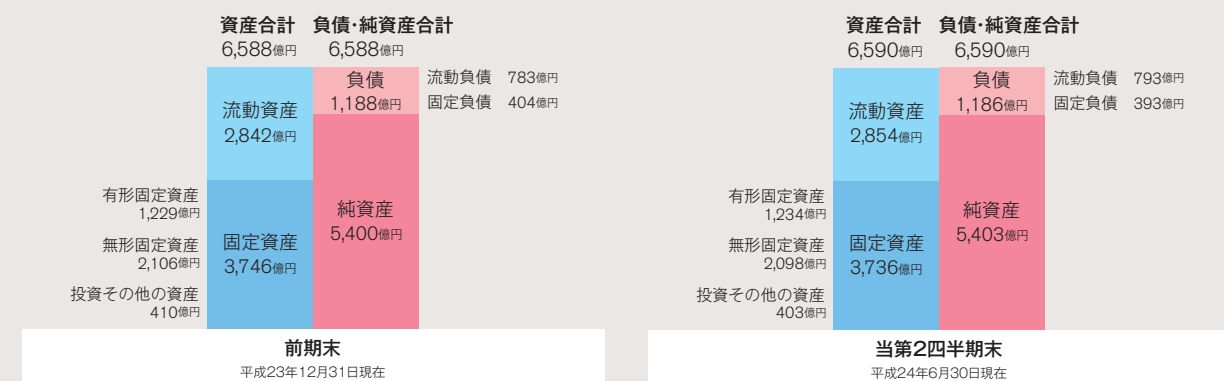
サキサグリブチンの開発・販売権の譲受に伴う販管費の増加に加え、化学品事業（前年同期営業利益21億円）の連結除外影響もあり、前年同期比14.5%の減益となりました。



経常利益・四半期純利益のポイント

経常利益は前年同期比23.6%減少しました。営業利益の減少のほか、バイオシミラー医薬品の開発・製造・販売の合併会社への先行投資に伴う持分法による投資損失を25億円計上したことなどが影響しました。四半期純利益は前年同期比35.0%の減少となりました。前年に計上した関係会社株式売却益がなくなったことなどが影響しました。

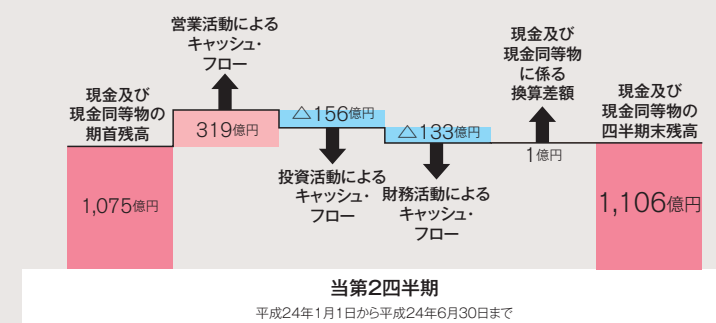
四半期連結貸借対照表の概要



四半期連結貸借対照表のポイント

資産、負債・純資産については、前年末に比べほぼ横ばいとなりました。資産については、償却によるのれんの減少の一方で、販売権が増加しました。純資産については、自己株式の取得などの減少要因がありましたが、四半期純利益の計上などにより前年末並みとなり、自己資本比率は81.8%となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要



四半期連結キャッシュ・フローのポイント

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上227億円等により、319億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産や無形固定資産の取得による支出などから、156億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出や配当金の支払いにより、133億円の支出となりました。

▶ 詳細な財務情報は、当社ホームページ[IR情報のライブラリ]をご覧ください。 <http://www.kyowa-kirin.co.jp/ir/library/index.html>

会社概要

商号	協和発酵キリン株式会社
創立	昭和24年7月1日
資本金	267億4,500万円
従業員数	7,287名

役員

代表取締役社長	花井 陳 雄
代表取締役副社長執行役員	古元 良 治
取締役常務執行役員	立元 花 和
取締役常務執行役員	河合 野 弘
取締役常務執行役員	西野 村 文
取締役(社外)	西北 山 六
取締役(社外)	北山 島 元
取締役(社外)	中島 井 浩
常勤監査役	永鈴 井 高
常勤監査役	小橋 林 弘
常勤監査役	高橋 幸

執行役員

常務執行役員	三箇 山 俊 文
常務執行役員	佐藤 内 洋 一
常務執行役員	大諸 大 裕
執行役員	山崎 島 暢 滋
執行役員	大川 野 谷 敏 久
執行役員	杉井 上 浩 史
執行役員	秋岡 永 崎 士 朗
執行役員	安設 達 和 研 義
執行役員	宮本 石 志 聡
執行役員	大坂 西 本 卓 史
執行役員	二 聡 朗

株式の状況

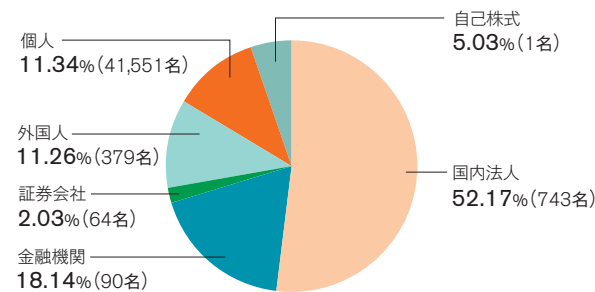
発行可能株式総数	987,900,000株
発行済株式の総数	576,483,555株
株主数	42,828名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
キリンホールディングス株式会社	288,819	52.75
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	22,733	4.15
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	15,859	2.89
農林中央金庫	10,706	1.95
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	4,781	0.87
野村信託銀行株式会社(投信口)	4,246	0.77
ジュニパー	3,384	0.61
ビービーエイチ493025ブラックロックグローバルアロケーションファンドインク	3,370	0.61
ドイツ証券株式会社	3,157	0.57
協和発酵キリン従業員持株会	3,131	0.57

(注) 1. 持株比率は自己株式(29,032,173株)を控除して計算しております。
 2. みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社の持株数4,781千株は、株式会社みずほ銀行が委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は株式会社みずほ銀行が留保しております。

所有者別株式分布状況



事業所

本社	東京都千代田区大手町一丁目6番1号
営業拠点	札幌支店、東北支店、東京支店、千葉埼玉支店、北関東支店、甲信越支店、横浜支店、名古屋支店、大阪支店、京滋北陸支店、中国支店、四国支店、九州支店 ※このほか、営業所が57か所あります。
生産拠点	高崎工場、富士工場、四日市工場、堺工場、宇部工場
研究拠点	バイオ生産技術研究所、東京リサーチパーク、富士リサーチパーク、製剤研究所、合成技術研究所

グループ企業 (■: 医薬事業 ■: バイオケミカル事業 ■: その他事業)

